



閉会挨拶



(財)関西空港調査会

会長

浅沼 清太郎

あさ ぬま せい た ろ う

財団法人関西空港調査会の理事長 浅沼でございます。

本日は、皆様方は大変お忙しい中をご出席いただきましてありがとうございました。

「関西国際空港シンポジウムin TOKYO」閉会に当たりまして、一言お礼とご挨拶を申し上げます。

この度、ノーベル賞のダブル受賞で、日本中が喜びにわきました。物理、化学という基礎科学分野の研究水準の高さは、まさに世界に誇るべきことを証明しました。このうちの化学賞は、皆様方ご存じのように、京都の島津製作所の田中耕一さんでございまして、その開発された分析装置は、タンパク質の成分解析に用い、今後のバイオ研究になくはない機器のように聞いておりますが、今、関西では、バイオ特区構想が進められております中で、関西にとりまして明るい話題でございます。

先ほどもお話が出たようではありますが、昨年4月、関西国際空港がアメリカの権威ある土木学会から、20世紀の100年間、世界の土木・建築物の中で、モニュメント・オブ・ザ・ミレニアムとして10選ばれた、その中の空港部門で関西国際空港が受賞をいたしました。パナマ運河等と並びまして、土木工学部門のノーベル賞ともいふべきこの受賞は、我が国の産業技術の優秀さをあらわすものと私は思っております。

このように、高い技術力を持って完成いたしました関西国際空港、平成7年の阪神淡路大震災でも、この震災の半年前にできたわけですが、この震災でビクともしない。被災地の復興支援に大きな力を発揮したことを、私は忘れることができま

せん。昨今、関西の経済面での沈滞、元気のなさが話題になっておりますが、関西のこのような、基礎科学のみならず、産業技術の水準の高さ、これが関西復興の基盤、先導役を果たしまして、21世紀、さらにすばらしい関西に導くのではないかと、期待をいたしておるのであります。

ところで関西国際空港は、伊丹の騒音問題に端を発しまして、公害のない空港として計画され、また、成田での混乱を教訓に、地域と共生する空港として、対話を重視しながら建設された21世紀志向の空港であります。我が国の国際拠点空港の一つとして、今後の航空輸送事業の増加に対応すべく、2007年、平行滑走路の供用開始を目指しまして2期工事が進められております。

一方では、行・財政改革の一環として、特殊法人の見直しの中での空港の民営化など、今後の国際空港のあり方について様々な議論が進められておること、ご存じのとおりであります。公共事業だからということ、国際拠点空港の建設が、道路や新幹線と同列に議論をされておりますけれども、私は、日本の将来を考え、将来のためには、もちろん需要予測、そろばん、採算性ということは大変重要ではありますが、この需要予測やそろばんを超えてでもやらなければならない国家的な事業というものがあるのではないかと。世界の中に生きていく日本にとりまして、国際拠点空港の建設はまさにそういう性格の事業だと私は思います。

1982年の4月に、私ども調査会の創設者である京都大学の奥田先生、いわゆる奥田試案というのが発表されましたが、その中では、今日も議論が出ましたけれども、関西国際空港の上物と下物



に事業主体を分けまして、上下分離で建設する。これが奥田試案でありました。当時、私は阪神公団の理事長をやっておりましたが、国土の造成に当たる下物の埋め立てにつきましては、道路財源を投入するのが適切ではないかと提唱をいたしました。当時は年間の道路建設費は総額6兆円余り、その1%ないし1.5%、この1,000億円を活用いたしますれば、10年で1兆円の埋め立てが賄える。こういう試算をいたしたわけであります。

現在、幸いなことには、国土交通省という陸・海・空の交通行政を総合的に担当する省ができました。これまでの運輸、建設というような縦割りにはこだわらずに、総合交通会計とでもいうような仕組みを考えまして、21世紀の日本の国際空港のあるべき姿に基づいて、グローバルな交流を促進する機会ではないかと私は考えます。今日もそのようなご議論があったように思います。

さて、本日は、21世紀の国際拠点空港と関西の将来というテーマのもとに、石森先生から、今後の需要の伸びが期待されます観光産業につきまして、大変熱のこもった、興味深いご講演をいただきました。また、パネルディスカッションにおきましては、導傳アナウンサーの軽妙な司会をいただきました。5人のパネラーの皆様から、様々な観点から貴重なご意見、活発な論議を展開をさせていただきました。本当にありがとうございました。今回のシンポジウムの議論で出されました貴重なご意見が、今後の新たな政策形成に向けて大きく寄与をするものと期待をいたしております。

最後に、本日のシンポジウムの開催に当たりまして、ご協賛・ご後援をいただきました関係機関を初め、ご参加をいただきました皆様に深く感謝を申し上げまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。